

【総括】

保護者、生徒とも全部の質問項目で肯定的回答が否定的回答を上回った。また、学校に対する総体的印象を聞く質問である「子どもは学校に行くのを楽しみにしている（保護者）」は89%、「桜塚高校は楽しい（生徒）」は90%といずれも高い値を維持した。

【学習指導】

・「授業はわかりやすい（生徒）」が60%、「子どもは授業がわかりやすいと言っている（保護者）」が61%で、昨年度より共に約15%低かった。「アクティブラーニング型の学習指導を取り入れている（教職員）」は85%となり、昨年度より10%高く、生徒の授業理解のため教員は努力を重ねている。わかりやすい授業のために何が必要なのか、さらに検討をしてゆく必要がある。

・今年度も5月と11月を「授業改善月間」と称し、教員による相互授業見学や研究授業を行った結果「他の先生が授業を見学に来ることがある」は76%であった。また授業アンケート結果を踏まえた教科・学年別の協議を行い、授業における「桜塚スタンダード」のブラッシュアップを図った。

・「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」は90%であった。ICT機器の活用に習熟している教員もいるが、不慣れな教員もいるので、教員同士の教えあいを進め、全ての教員がICT機器の活用に習熟するようにしていく。それと共に、ICT機器の活用だけに依存しないバランスのとれた授業での活用方法を研究し、教員相互でそのノウハウや情報を共有する必要がある。

【生徒指導】

・「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている（生徒）」の肯定的回答は70%であり、生徒は自主的に規律を遵守しようとする意識が高いといえるが、さらなる意識の向上を図る必要がある。

・「桜塚高校の生徒指導の方針には共感できる（保護者）」は81%で、生徒が「厳しい」と感じる指導も、保護者の視点においては必要であると理解を得ている。

【進路指導】

・「将来の進路や生き方について考える機会がある（生徒）」は75%、「桜塚高校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている（保護者）」が79%であった。大学受験だけでなく、その先の人生も含めた「キャリア教育」の指導を充実させる必要がある。

【地域連携等】

・豊中市や岡町商店街との各種連携事業や東日本大震災の被災地支援ボランティアで始まった岩手県立大槌高等学校との交流について、肯定的評価は生徒65%、保護者82%、教職員95%であった。生徒の意識と保護者、教職員の意識に差が出た。自分の学校が地域へ貢献し、被災地を支援することは生徒の自尊感情を高めることにつながるため、全校生徒が事業や交流に関わるプログラムを設定するとともに、それらの活動を他の生徒にも伝えて、学校全体で「地域とつながり被災地とともに歩む学校」とする意識を持つ必要がある。

【情報提供】

・「桜塚高校は、進路に関する情報提供に努力している（保護者）」は77%、「桜塚高校の『ケータイ連絡網』によるメール発信を知っている」は79%、「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている（教職員）」は92%であった。概ね適切に情報提供を行っていると評価されたが、進路の情報提供の頻度や方法についてはさらなる工夫が必要である。

【学校運営】

・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」が79%、「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」が97%であり、教職員は協働して業務を進めている。

・「PDCAサイクルによる学校経営を推進している」は56%、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」は62%であり、共に十分とはいえない。

・「教職員の服務規律への自覚が高い」は92%であり、服務規律に対する意識は高いといえる。